

第374号 令和2年1月

東京都農業会議情報

編集及び発行 (一社)東京都農業会議

渋谷区代々木2-10-12
TEL 03-3370-7145

新年にあたって

(一社)東京都農業会議 会長 青山 侑



青山会長

あけまして
おめでとございます
令和になってはじめてのお
正月を皆様ご家族仲良く迎え
られたことと思います。
農業委員会は地方公共団体
の執行機関としてその設置が
地方自治法に定められていま
す。農業委員会は農業委員
会の職務の第一に農地等の利
用関係の調整を挙げていま
す。今年はこの農業委員会法
の5年ごと見直しの議論がは
じまります。

昨年は都市計画法が改正さ
れ田園住居地域という形で農
地が位置づけられました。今
年は地区計画に農地を位置
づける制度の創設が重要とな

ります。

また、EUやアメリカから
の農産物の輸入がこれから段
階的に増加することが懸念さ
れます。

私たちを取り巻く状況はま
すます厳しさを増しています
が、これまで踏みとどまった
農業者たちは強者ぞろいで
す。力をあわせて今年もがんば
っていきたいと思います。
よろしく願います。

第61回東京都農業委員会・農業者大会を開きます

都農業会議と農業委員会
地区協議会・連合会は「第
61回東京都農業委員会・農
業者大会」を令和2年2月
20日(木)、午後1時より
昭島市のKOTORIホー
ル(昭島市民会館)におい
て開催します。
大会では「東京農業の確

第22回全国農業担い手サミットinしずおか

小寺正明氏(清瀬市)が経営局長賞を受賞

12月5日(6
日、静岡県コンベ
ンションアーツセ
ンターグランシッ
プで「深めよう!
農のキズナ高め合

おうふじのくからく日本の
未来のために」をテーマに



小寺氏は経営改善部門で経営局長賞を受賞した

第22回全国農業担い手サミッ
トinしずおかが開かれ、全国
から2000人以上が参加し
ました。
令和元年度全国優良経営

東京NEO-FARMERS!が デイスカバー農山漁村の宝の選定地区に

都内の新規就農者等で組
織する東京NEO-FAR
MERS!が農水省主催の
「デイスカバー農山漁村の
宝」の選定地区に選ばれま
した。

12月3日に首相官邸で認
定証交付式が、翌日の4日
には有楽町駅前広場でマル
シェが開かれました。



有楽町駅前広場で開かれた選定地区のマルシェに参加

体表彰では、清瀬市の小寺
正明氏が経営改善部門で経
営局長賞を受賞しました。
経営規模の拡大、雇用の活
用、ASIA GAPの取得
など持続可能な農業を実践
する姿勢が高く評価されま
した。

令和2年度の事業・予算の構想などを協議

令和元年度第2回事業推進協議会

都農業会議は、11月18日に
農業委員会長・区市町村主管
課長および学識経験者・農業
団体会員82人の出席を得て、
第2回事業推進協議会を開き
ました。

協議では、令和2年度農業
会議事業・予算の構想および
会費額などを説明し、来年度

も連携をはかりながら取り組
むこととしました。

更に、農業委員会活動と農
地制度の状況について説明す
るとともに、農業経営者の支
援活動について報告しまし
た。

また、農業委員等の綱紀粛
正について確認を行いました。

全国運動に向けて決議

東京選出の国会議員と意見交換を実施

全国農業委員会会長代表者集会

11月28日、(一社)全国農業会議所(二田孝治会長)の主催により、全国農業委員会会長代表者集会が港区のメルパルクホールにおいて開かれました。東京からは19区市町の農業委員会会長らが出席しました。

第一部では、人・農地プランによる合意形成などをテーマに三つの農業委員会からの事例報告や講演が行われたほか、「地域の農地を活かし、担い手を応援する全国運動」の申し合わせが決議されました。

また第二部では「新たな食料・農業・農村基本計画の策定等に向けた要請」が決議されました。

集会の終了後、東京の参加者は衆議院議員会館に移動し、東京都内選出の国会議員との意見交換会を開きました。

テーマとして市街化区域内農地を保全するための新たな地区計画制度の創設がとりあげられ、市街化区域を持つ区市町の農業委員会からは小規模なエリアで指定できる制度を求める声があった。

次年度に向けた農業委員会活動を報告

農業委員会活動推進フォーラム

都農業会議は11月29日に府中市生涯学習センターにて、

農業委員会活動推進フォーラムを開き、農業委員・農地利用最適化推進委員など約260人が参加しました。

今年度はこれまでの3年間の活動を次期の農業委員会活動につなげることをテーマに開催し、青山份会長が挨拶したあと、本会から趣旨を説明し、その後8委員会から活動の報告をしました。

報告の概要は左記のとおりです。

杉並区および東久留米市… 農地利用状況調査の効果的な実施について
足立区… 千住ネギの栽培を通じた食育活動について

あきる野市および日の出町… 新規就農者の受入状況や支援活動などについて
町田市… 生産緑地の追加指定や市街

ありがとうございました。

このほか、都市農地貸借円滑化法を活用して都市農地の保全につなげる取組の必要性など、幅広いテーマについて意見が交わされました。



国会議員との意見交換を実施した

農地流動化の取り組みなどを現地研究

農地流動化・利用集積現地研究会

都農業会議は、12月18日に農地流動化・利用集積現地研究会を町田市にて開き、農業委員・農地利用最適化推進委員など約30人が参加しました。

最初に本会から都内の市街化区域以外における農地の貸し借りの状況や昨年改正された農地中間管理事業法などについて報告しました。



町田市の事業を活用して新規就農した渡辺恒雄氏(中央)

その後、町田市の新規就農者の渡辺恒雄氏の経営とNP法人たがやすの援農活動について現地研究しました。

常設審議委員会だより

第8回常設審議委員会

11月18日JA東京南新宿ビル会議室にて事業推進協議会終了後に開催。

報告

①経過報告②10月の農地法第4条・第5条の農地転用許可状況を東京都から報告。協議

①第59回企業的農業経営顕彰事業受賞者の決定②第39回農業後継者顕彰事業受賞者の決定③令和元年台風等災害義援金の対応について説明した。

第9回常設審議委員会

12月17日JA東京南新宿ビル会議室で開催。

報告

①経過報告②農地中間管理権の取得と農地利用配分計画による使用収益権の設定状況を報告。協議

①第61回東京都農業委員会・農業者大会開催要領の決定②第46回農業委員会等功労者表彰受賞者の決定③農地管理・流動化推進月間の状況について説明した。



町田市の活動について報告する吉川農委会長

法人経営と農福連携を研究

農業経営の法人化と農地の貸借・雇用の活用研究会

都農業会議では、11月26日と12月19日の両日に「農業経営の法人化と農地の貸借・雇用の活用研究会」を八王子市で開きました。

本年度は法人経営と農福連



(株)アンドファームユギの作業場で説明を行う大神辰裕氏

携をテーマに、八王子市に農業参入をした(株)アンドファームユギの大神辰裕代表取締役(11月26日)、NPO法人あるがの神谷直樹氏(12月19日)よりそれぞれの取り組みについて話しを聞いた後、現地見学を行いました。

また両日、「法人経営における農福連携の導入について」農林水産省都市農村交流課の直秀一郎氏による講演会も開き、実際に農福連携に取り組む際に必要となる対策や注意点などについて、具体的な提案がなされました。

研究会に参加した農業者からは、「農福連携の導入を検討

農業者年金制度を研究

農業者年金制度推進研究会

都農業会議は、11月20日に農業者年金制度推進研究会を開き、農業委員会・JA職員、加入推進員(農業委員)など28人が出席しました。

税理士で弁護士、公認会計士である本木賢太郎氏の講演では、確定申告の各種控除について説明が行われ、農業者年金の保険料が全額社会保険料控除として扱われるメリッ

トについて説明がありました。また、特定社会保険労務士の藤本紀美香氏より、ニューズなどで話題の国民年金や厚生年金の情勢について情報提供があったほか、独立行政法人農業者年金基金の西恵正理事長より「東京の農業者こそ、農業者年金をもっと活用すべき」と制度の普及推進の重要性が訴えられました。

討しており、今回の事例を聞いて取り組みの重要性を再認識した。農福連携の取り組みが農地を残すことにもつながると感じた」と今後、さらなる農福連携の推進を期待する声が寄せられました。



NPO法人「あるが」の取り組みについて説明する神谷直樹氏

このたび都内の消費者を対象とする農業応援バスツアーが三鷹市内で実施され、募集に応募した35人の消費者と関係者が参加しました。

東京都農業経営者クラブ(眞利子伊知郎会長)と都農業会議、東京都消費者月間実行委員会が主催したもので、三鷹市農業委員会と同市の認定農業者連絡会の協力を得て実施しました。

一行は、海老澤誠一さん、一晃さん親子の花き生産、JA東京むさし三鷹緑化センター、三鷹ファームの農場、

三鷹市で消費者を対象とした農業応援バスツアー開く

東京都農業経営者クラブ 東京都消費者月間実行委員会

伊藤紀幸氏の野菜生産などを見学しました。

見学後は室内に移動して三鷹市の農家を交えた意見交換が行われました。



伊藤紀幸氏の野菜畑を見学する

横浜市で女性農業者セミナー開く

都農業会議・都農業経営者クラブ共催

都農業会議と都農業経営者クラブ(眞利子伊知郎会長)は12月13日に「横浜市の地産地消」をテーマに女性農業者セミナーを開き、女性農業者など20人が参加しました。

港北区で約1ヘクタールの農地を母親と2人で耕作し、100種類ほどの野菜を生産、直売所やホテルのレストランに出荷する女性

農業者・松本こずえ氏のほ場と、保土ヶ谷区で自営の直売所を営み、オリジナル野菜の販売に力を入れている荻部博之氏のほ場を見学しました。

その後、JA横浜の取り組みや若手女性農業者組織「農娘会」の活動について話しを聞いたほか、松本氏や荻部氏の野菜を取り扱う「野菜レストランsaito」で昼

食をとり、齊藤良治シェフから「美味しい野菜料理で、横浜の農業を応援する」取り組みについて話しを伺いました。



施設ハーブの栽培について説明する松本こずえ氏

食と農セミナー開く

都農業会議・都農業経営者クラブ・都消費者月間実行委員会など

都農業会議と東京都農業経営者クラブ（眞利子伊知郎会長）は12月5日、中野サンプリザにおいて東京都消費者月間実行委員会ならびに（公財）東京都農林水産振興財団との共催により「食と農セミナー」を開きました。

都内の農業者と消費者が交流しながら共に学ぶ場をつくらうと企画されたもので、あわせて115人が参加しました。

前半は神保佳永氏（イタリア料理シェフ・食育活動家）を講師に迎え「全ては畑にあり 野菜は五感で味わう」をテーマに講演が行われました。

神保氏は自らが食育に取り



食育の取組について話す神保佳永氏

全国農業体験農園協会（加藤義松理事長・事務局）は12月7日に消費者向けPRイベント「農ある暮らし、はじめませんか？」（協賛：東京都消費者月間）を渋谷区で開き、農園利用者や消費者など50人が参加しました。



挨拶をする加藤義松理事長

はじめに東京大学講師の飯田晶子氏が野菜の「おすそわけ」についての調査報告をし、その後、デザイナー

「農ある暮らし、はじめませんか？」PRイベント開く

NPO法人全国農業体験農園協会

フーズ（株）代表取締役丹羽真清氏が「旬の野菜が持つ栄養価と機能性」について講演しました。

加藤理事長と練馬区園主の対談では野菜づくりのコツが披露されました。参加者からは「興味深い話で参考になった」と感想がありました。

都市農業を世界に発信

世界都市農業サミットin練馬

11月29日から12月1日まで、世界都市農業サミット（主催練馬区）が開催されました。ニューヨーク、ロンドン、ジャカルタ、ソウル、トロントの5都市から農業者、研究者、農政担当者などを招聘。3つの分科会とシンポジウムで練馬区および各都市が現情と取組を報告。都市農業の魅

茨城県で「島しょ農業振興現地研修会」を実施

島しょ農業委員会協議会

島しょ農業委員会協議会（沖山慶孝会長）では、毎年「島しょ農業振興現地研修会」を実施しています。今年度は地域振興プロジェクトの推進事業も一部活用して12月2日から3日にかけて、茨城県内の取組を研修しました。

初日は、JA北つくばアグリファームで農協出資型農業経営法人の経営について研修し、ほ場管理の様子や獣害対応などについて研究しました。

次の日は、平成29年度天皇杯を受賞したJAなめがたしおさい甘藷部会連絡会を訪ねました。焼き芋に特化したサツマイモ販売で年間18000トンを出荷し、平成元年以降、出荷量を2.5倍



サツマイモを貯蔵する倉庫を見学する

にし売上げを6倍にしました。他にも国の研究資料を見学できる「食の農の科学館」、第3回直売所甲子園で優勝した「みずほの村」を見学しました。

2月～3月の日程

- 2・3 (月) 農委会活動研究会
- 2・6 (木) 組織・活動検討会
- 2・14 (金) 理事会
- 2・14 (金) 常設審議委員会
- 2・14 (金) 大会運営委員会
- 2・20 (木) 第61回農委会大会
- 3・6 (金) 主任職員協議会
- 3・6 (金) 都職研役員会
- 3・17 (火) 通常総会
- 3・17 (火) 常設審議委員会